



整本

現在は1600余字。字径約4cm。

宋代に土中に埋もれ、1922年出土した。1000年近く土中に埋もれていたため文字がはつきりとしている。碑の中では最も肉筆に近いと言われ、顔法の真を学ぶのに良いと思われる。

### 字の配置と全体の構成（布置・章法）

布置法は文字の配置の仕方、章法は全体の構成のこと。

四面碑。碑高268cm、碑幅92cm（碑身拓本高さ175cm、幅89cm）

第一面（碑陽）19行、満行37字。

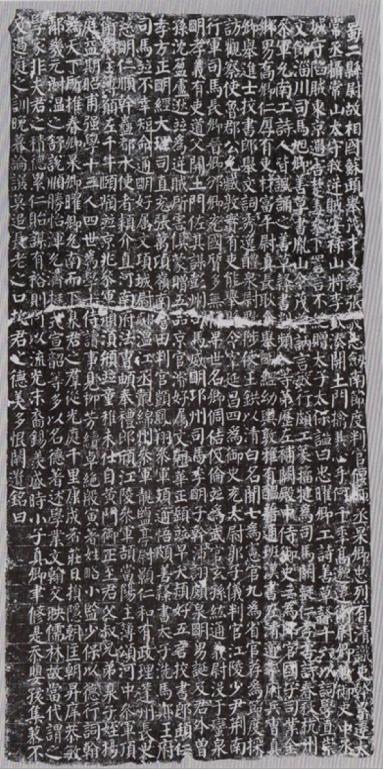
第二面（碑側）5行、満行38字。

第三面（碑陰）20行、満行38字。

第四面（右側の碑側）消失。

777年6月（大曆12）元載が失脚し、真卿は湖州から中央に呼び戻され同年8月、刑部尚書（法務省長官）となる。

778年12月、吏部尚書（人事院長官）となり礼儀使を兼務した。



整本（碑陰）

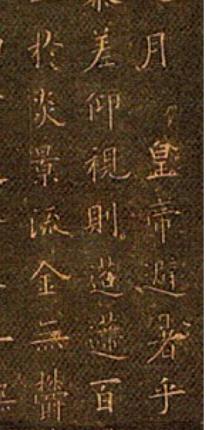
### 字座（または字野）

書かれた文字には位置のエナジー（ボテンシャルエナジー）による心理的な勢力範囲が在る。

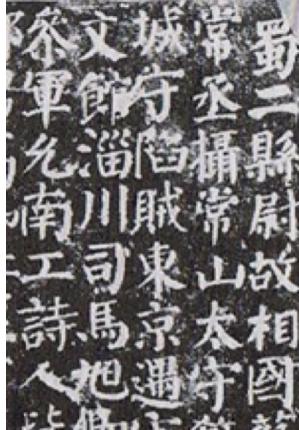
字座の強さによって余白の質が決定される。

顔勤礼碑は文字の内部に広い余白があり、力は内部に向かい、広い字座がなくとも窮屈な感じがない。

九成宮醴泉銘は求心的で内部に余白がない。それでも窮屈な感じがしないのは、字座を広くする工夫をし、その遠心的な力を受け止めるために広い余白をつくっているからである。



九成宮醴泉銘（整本部分）



顔勤礼碑・碑陰（整本部分）



点画の組み立て方（結構法・結体法）

初唐の楷書の原理原則と同じである。

中心にある縦画は太くまつすぐに書く。

等間隔



筆圧の変化（リズム）細い点画と太い点画の組み合わせ。重厚さと軽やかさの融合。左はらい、横画を細く。



右側の縦画、はらいを左側の縦画、はらいより太く書く。



形のバランス（向勢・背勢・直勢）

点画の譲り合い（相議相避法）



向勢



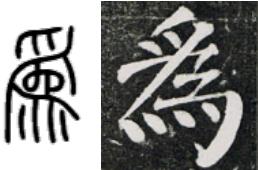
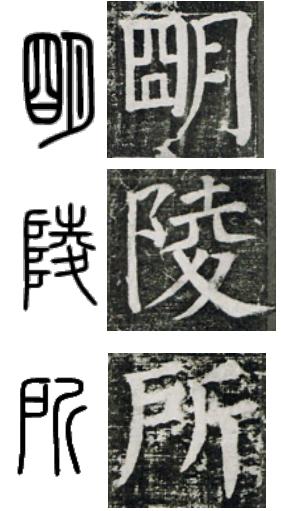
九成宮醴泉銘

背勢



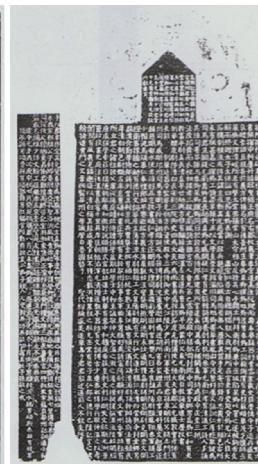
直勢

篆書を基にした楷書





碑面



碑面

果卿文理清解  
獨制橫流未有朕  
嘉

向勢

國贈少

覆勢の横画

自于

向勢

美

王太甘

懷が広い

三

九成宮醴泉銘より

美

雁塔聖教序より

楷書の基本である、横画の  
仰勢、平勢、覆勢（俯勢）  
で書かれている。

小篆の「美」

終終清清

九成宮醴泉銘より

清清

九成宮醴泉銘より

美

美



## 自叙帖

777年10月（大曆12）

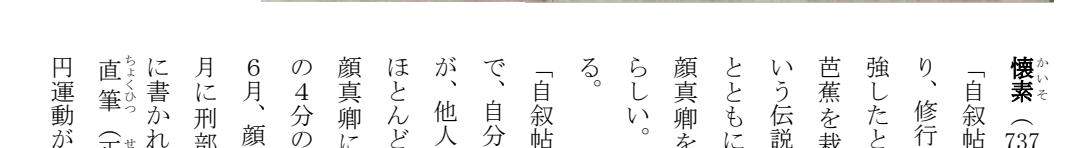
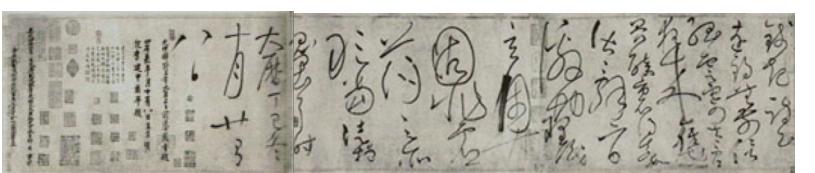
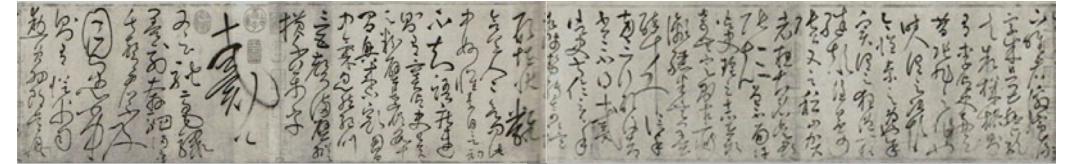
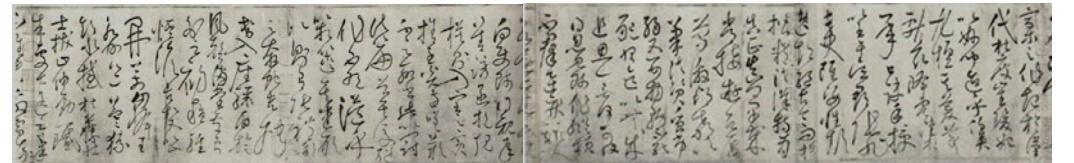
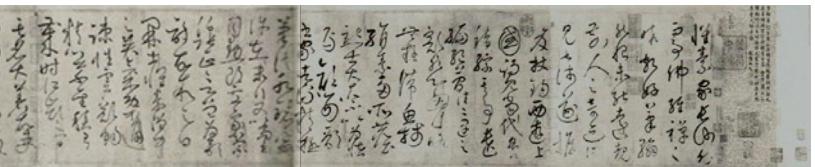
懷素40歳？ころの狂草。台北故宮博物院蔵。

きょうそう

**懷素**（737？—？）生卒年不詳。

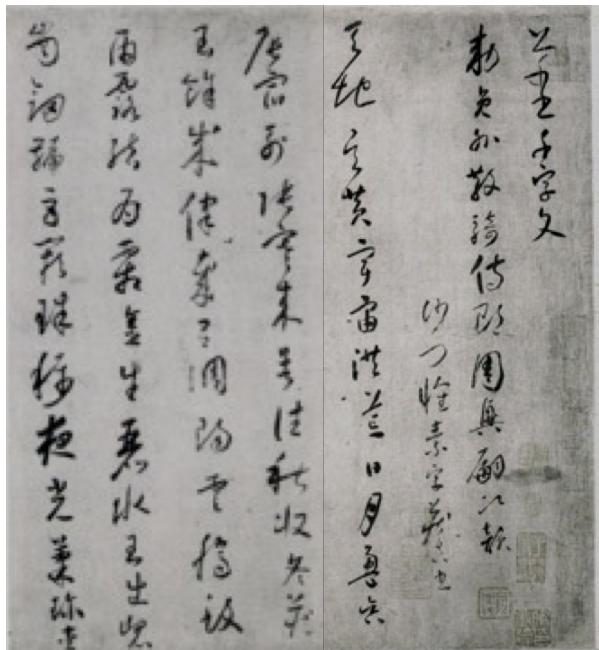
「自叙帖」には、幼少のとき仏門に入り、修行のかたわら大変熱心に書を勉強したと書いている。紙を買えなくて芭蕉を栽培してその葉に練習したという伝説がある。草書の名人で張旭とともに「張顛素狂」と呼ばれる。

顏真卿を介して張旭の狂草を学んだらしい。その生涯はほとんど不明である。



## 草書千字文

799年（貞元15） 懷素晩年？の草書。



周興嗣作の千字文を書いたもの。黄絹八幅を継いだ絹本に書かれている。約29 cm × 279 cm

一字千金の値打ちがあるということから「千金帖」と呼ばれている。

王法の伝統を守った保守的な作だが、平淡古雅の趣のある唐代草書の名品である。

良寛が学んだ作品だと想われる。

草書千字文。

勅員外散騎侍郎周興嗣次韻。  
沙門懷素字誠真書。

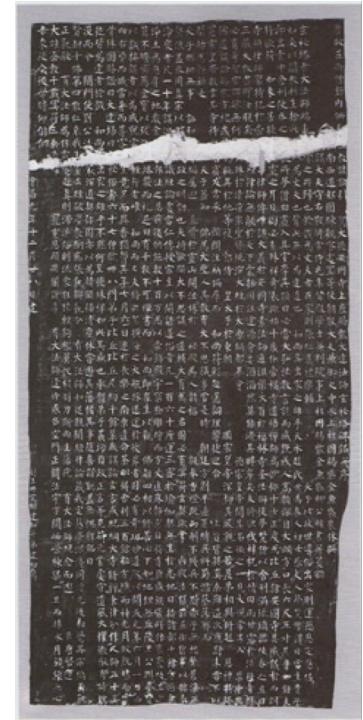
天地玄黃。宇宙洪荒。日月盈昃。

辰宿列張。寒來暑往。秋收冬藏。

玉餘成律。歲呂調陽。雲騰致雨。

露結為霜。金生麗水。玉出崑崙。

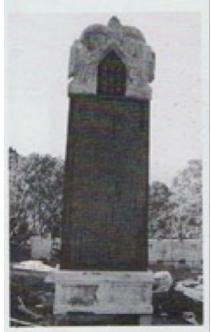
劍號巨闕。珠稱夜光。稟珍李（柰）



整本

道也和尚其出  
家之雄乎天水趙  
氏世為秦人初母  
張夫人夢梵僧謂

篆額



碑のレプリカ

水月鏡像

無心志來

大不思議

主画強調の造形。

起筆はすべて逆筆、藏鋒。

右はらいは逆筆で入筆、送筆部は側筆。

碑高は4m近いので、上段は大きく書いている。上段は顔法、下段にゆくにしたがつて欧法、褚法が出てくる。

上の図版の「無心」は最下段、「去来」は最上段にある。「大不思議」は中段に「水月鏡像」は下段にある。

初めて王法を習い歐陽詢を学んだ。顏真卿をいつ学んだか分からぬ。唐代に一世を風靡した流行作家であつた。多くの碑が残つてゐる。その書風を「柳体」という。

米芾は「醜怪な悪筆の元祖であり、古法は柳公權よりすたれた。」と評してゐる。

### 玄秘塔碑

大達法師・端甫の業績と玄秘塔の由來を記した碑。「大達法師玄秘塔碑」「和尚碑」ともいふ。

28行、満行54字、篆額12字（柳公權の篆書）、字大約4cm、碑高386cm、碑幅120cm厚さ約30cm。

刻者名（邵建和・建初という兄弟）

が記されている。

### 圭峰禪師碑

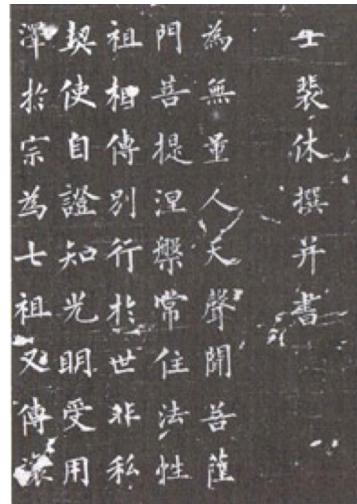
855年

裴休の楷書と撰文。

唐末の傑作。『千字文』などの影響の全く見られない伝統的な楷書（欧法）の字体を書いたもの。篆額を柳公權が書いている。裴休は柳公權の玄秘塔碑の撰文者。

碑高198cm、碑幅89cm、36行、満行65字。

西安市の南方、郊外の草堂寺に現存するらしい。



### 不空和尚碑

781年11月（建中2）

徐浩79歳の楷書。西安碑林蔵

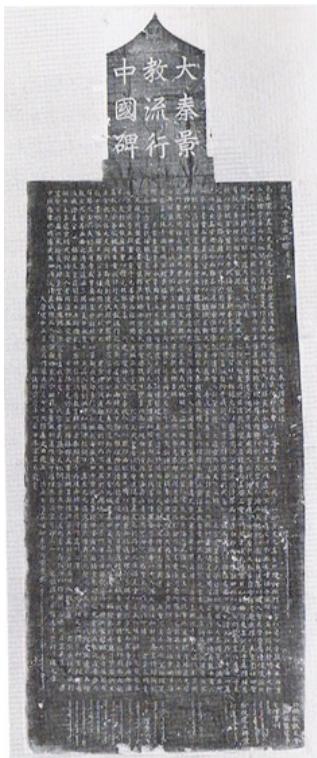


廣智三藏和尚碑銘  
青光祿大夫御史太  
不聞於中夏故不書

### 大秦景教流行中國碑

781年（建中2）

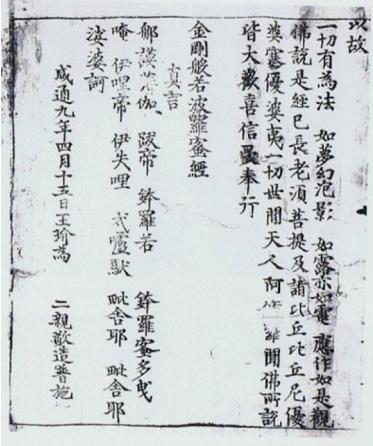
西安碑林蔵



### 金剛般若波羅密經

868年

現存最古の木版印刷物と版画



オーレル・スタインによつて1907年に敦煌の莫高窟で発見された。印刷された6枚の紙をつないだ巻物で長さ5.3m。巻首に現存最古の版画である口絵がついている。現存する世界最古の木版印刷物は法隆寺の「百万塔陀羅尼」(770年)らしいが、これはバレンを使つていないらしく、木版印刷と言えるかどうかに疑問がある、とりあえず金剛般若經を最古としておく。中国では630年頃印刷が行われていたという最古の記録もあるらしい。

## 唐の滅亡

安史の乱以後、各地の節度使が軍閥化し反乱を起した。王朝内では奸臣を見抜けない愚かな皇帝のもと、私利私権を争う官僚や宦官が暗躍し、大唐帝国は内部から崩壊し始め、坂道を転がるように奈落の底へと墮ちていった。20代哀帝まで290年つづいた唐朝は、塩の密売人の黃巢の反乱によって907年滅亡した。唐が栄えたのは、玄宗までの約150年間であり後半の150年は混乱の中で息絶えていった歴史であった。

顏真卿は唐朝が最も栄えた時代から地獄へ転げ落ちていく時代までを駆けぬけた人であった。  
顏真卿を支えたのは、質実剛健な儒者の精神と、書道であつたと思われる。

顏真卿の剛直な生き方は、孔子門下の儒者の精神を受け継いだものと思われる。  
儒者とは天下国家を憂え、あるべき理想の社会を時の権力者に質す激しい人たちである。  
孔子の門下の72人の高弟のうち8人が顏氏であつたと「顏氏家廟碑」に述べられている。  
**儒**とは身を律する学問である。

子路問事君、子曰、勿欺也、而犯之。〔論語〕憲問第14の23)

子路、君に事えんことを問う。子曰わく、欺くこと勿かれ。而してこれを犯せ。

子路が主君に仕える事を尋ねました。孔子は答えました。「嘘をついてはいけない。しかし主君の誤りは正面からいさめよ。」・・・君主に仕えるときの心構えを説いている。

六言六弊 〔論語〕陽貨第17の8)

好仁不好学、其蔽也愚、好知不好学、其蔽也蕩、好信不好学、其蔽也賊、好直不好学、其蔽也絞、好勇不好学、其蔽也亂、好剛不好学、其蔽也狂、

仁を好んで学問を好まないと、その弊害として愚かになる（人から愚劣と見なされる）。

智を好んで学問を好まないと、その弊害としてとりとめが無くなる。

信を好んで学問を好まないと、その弊害として人をそこなうことになる（自分が騙されてしまう）。

正直なのを好んで学問を好まないと、その弊害として窮屈になる。

勇を好んで学問を好まないと、その弊害として乱暴になる。

剛強を好んで学問を好まないと、その弊害として狂乱に陥ることになる

仁（友愛・知（知識）・信（誠実）・直（正直）・勇（勇氣）・剛（剛強）の六つの徳。

〔六弊〕は愚（愚直）・蕩（放蕩）・賊（有害）・絞（緊迫）・乱（無秩序）・狂（狂氣・思い上がり）



顏真卿の絶筆といわれる  
「天中山」の三文字。

唐の混乱は新しい時代を産み出すための痛みであった。

顏真卿の生命感あふれる新しい書は、次代の新しい書を生み出す大きな原動力となり、現代まで何度も顏真卿は復活するのである。